

施策	61	地域資源の発見・資産化	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3570
政策担当部長名	教育次長 澤柳 陽一				
施策関係課名	歴史研究所・公民館・美術博物館・環境課				
重点施策	関連計画	飯田市歴史研究所第2期中期計画			

1 施策の目的

目的	対象	①地域資源(地域にある自然・文化・歴史)②市民
	意図	①見出す②価値を顕在化させる③認知度を高める

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み28年度
①存在が確認された地域資源の数(累計)	件	2,671	2,722	2,964	3,035		2,900
②住民人口	人	105,691	105,036	104,757	103,947		102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理							
①見出された地域資源の数(累計)	件	1,511	1,599	1,658	1,679		1,700
②活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	558	580	618	647		700
③地域資産を知っている市民の割合	%	43.0	41.8	45.6	44.9		45.0

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度実績	24年度	25年度	目標28年度
行政	市(国・県) ①調査研究する。 ②指定・認定・登録する。 ③情報を収集・整理・発信する。	①③調査研究を行った地域資源の数(社会教育機関の実績を生涯学習・スポーツ課で集計、累積件数)	① 1,658	1,679		1,700
		②指定等が行われた文化財の件数(生涯学習・スポーツ課で把握、累計件数)	② 164	167		190
		③				
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	①調査研究する。 ②情報を提供・発信する。	①市民によって見出された地域資源の数 ②発見情報の提供・発信件数	・伊那谷研究団体連絡協議会(伊那谷学の研究実践を多様な分野で担う16団体で構成)から、「伊那谷学」のとらえ方と、今後に向けた推進のあり方をまとめた方針が打ち出され、この中で、伊那谷学の研究成果を会誌、会報等に掲載する等して広く情報発信していくことが示された。			

3. 平成24年度の評価結果

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/>	計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/>	おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/>	あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/>	達成できなかった

(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/>	進んだ
<input checked="" type="checkbox"/>	ある程度進んだ
<input type="checkbox"/>	あまり進まなかった
<input type="checkbox"/>	進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・地域資源の発見を進めるとともに、調査研究成果を基に価値を顕在化させて活用可能な状態の地域資産に高め、さらにそれら地域資産への市民認知度を向上させることを意図に施策推進した。特に、資産化の取組みにおいては、長年の重要課題事項のいくつかについて、実現に向けた具体的なアクションを起したり、成果物としてまとめ上げる等して、施策を押し進めることができた。

【事務事業テーマ群別の評価】

<地域資源の発見>

・美術博物館(自然・人文・美術)、歴史研究所(建造物・歴史資料)、生涯学習・スポーツ課(埋蔵文化財・古墳)が中心となつて、調査・研究を行い、新たな地域資源の発見を進めた。

<地域資源の資産化>

・長年の課題であった座光寺地区の恒川遺跡群については、35年間に亘る調査成果に基づき、史跡指定をめざした具体的なアクションを地域と協働して起こし、資産化に向けた取組みを前進させることができた。

・歴史研究所では、旧飯田町と上飯田町の単位地域史としての「飯田・上飯田の歴史」(上下巻)、聞き取りをまとめた「飯田町のくらし」、「下伊那のなか満州」を刊行した。

・美術博物館でも、「飯田上飯田の民俗1」を刊行するとともに、美術、考古関係の展覧会、所蔵品図録の作成を行い、個々に存在していた地域資源を学術的な評価を加えて、つなぎ合わせる取組みにより資産化することができた。

・飯田市有形文化財に3件(溝口の塚古墳出土品・宮垣外遺跡土坑64出土品、座光寺の石川除)を指定するとともに、県史跡指定1件(南本城城跡)、国登録有形文化財登録1件(旧飯田測候所)が実現し、法制度に基づく文化財に位置づけて、資産価値を更に高めることができた。

<地域資産の情報発信>

・美術博物館、歴史研究所においては、専用ホームページや機関紙、年報・紀要等を通じて情報発信を行った。

・生涯学習・スポーツ課では、美術博物館等の既設ホームページとも連携させる形で、文化財保護情報サイト「文化財保護いいだ」のホームページを24年4月から新たに立ち上げるとともに、毎月の「広報いいだ」に文化財の紹介コーナーを設け、地域資産に係る情報発信機能を充実させた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・恒川遺跡群については、第1次候補区域の国史跡指定に係る意見具申を行うとともに、指定後の保存管理計画の素案の策定、遺構確認のための現地調査、出土遺物の市有形文化財指定を進め、地域資産としての位置づけを明確にし、その重要な価値を顕在化させる。

・美術博物館、歴史研究所では、調査研究成果に基づいた地域資源の資産化を更に進める。

・ホームページの充実を図るとともに、多様な情報媒体を効果的に活用して、地域資産の情報発信を積極的に行う。

・美術博物館、歴史研究所の蔵書についても、中央図書館で運用管理している蔵書検索システムでの検索が可能となるよう情報提供機能を充実させる。

・平成25年度内に飯田市教育委員会としての「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針を策定予定であるが、リニア時代の到来を見据えて社会教育機関が統合力を発揮し、かつ多様な主体と連携して、地域の個性と魅力の源となる地域資源の発見と、資産化の取組みを更に進める。

施策	61	地域資源の発見・資産化	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり		
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3570	政策担当部長名	教育次長 澤柳 陽一
施策関係課名	歴史研究所・公民館・美術博物館・環境課						
重点施策	関連計画	飯田市歴史研究所第2期中期計画					

1 施策の目的	
目的	対象 ①地域資源(地域にある自然・文化・歴史)②市民 意図 ①見出す②価値を顕在化させる③認知度を高める

2 現状把握							
(1)対象指標、成果指標の状況							
対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み28年度
① 存在が確認された地域資源の数(累計)	件	2,671	2,722	2,964	3,035		2,900
② 住民人口	人	105,691	105,036	104,757	103,947		102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理							
① 見出された地域資源の数(累計)	件	1,511	1,599	1,658	1,679		1,700
② 活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	558	580	618	647		700
③ 地域資産を知っている市民の割合	%	43.0	41.8	45.6	44.9		45.0

(2)成果向上に向けての役割分担							
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度実績	24年度	25年度	目標28年度	
行政	市(国・県) ①調査研究する。 ②指定・認定・登録する。 ③情報を収集・整理・発信する。	①③調査研究を行った地域資源の数(社会教育機関の実績を生涯学習・スポーツ課で集計、累積件数)	① 1,658	1,679		1,700	
		②指定等が行われた文化財の件数(生涯学習・スポーツ課で把握、累計件数)	② 164	167		190	
		③					
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	①調査研究する。 ②情報を提供・発信する。	①市民によって見出された地域資源の数 ②発見情報の提供・発信件数	・伊那谷研究団体連絡協議会(伊那谷学の研究実践を多様な分野で担う16団体で構成)から、「伊那谷学」のとらえ方と、今後に向けた推進のあり方をまとめた方針が打ち出され、この中で、伊那谷学の研究成果を会誌、会報等に掲載する等して広く情報発信していくことが示された。				

3. 平成24年度の評価結果

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)	(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)
<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり <input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった <input type="checkbox"/> 達成できなかった	<input type="checkbox"/> 進んだ <input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ <input type="checkbox"/> あまり進まなかった <input type="checkbox"/> 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・地域資源の発見を進めるとともに、調査研究成果を基に価値を顕在化させて活用可能な状態の地域資産に高め、さらにそれら地域資産への市民認知度を向上させることを意図に施策推進した。特に、資産化の取組みにおいては、長年の重要課題事項のいくつかについて、実現に向けた具体的なアクションを起したり、成果物としてまとめ上げる等して、施策を推し進めることができた。

【事務事業テーマ群別の評価】

<地域資源の発見>

・美術博物館(自然・人文・美術)、歴史研究所(建造物・歴史資料)、生涯学習・スポーツ課(埋蔵文化財・古墳)が中心となつて、調査・研究を行い、新たな地域資源の発見を進めた。

<地域資源の資産化>

・長年の課題であった座光寺地区の恒川遺跡群については、35年間に亘る調査成果に基づき、史跡指定をめざした具体的なアクションを地域と協働して起こし、資産化に向けた取組みを前進させることができた。

・歴史研究所では、旧飯田町と上飯田町の単位地域史としての「飯田・上飯田の歴史」(上下巻)、聞き取りをまとめた「飯田町のくらし」、「下伊那のなか満州」を刊行した。

・美術博物館でも、「飯田上飯田の民俗1」を刊行するとともに、美術、考古関係の展覧会、所蔵品図録の作成を行い、個々に存在していた地域資源を学術的な評価を加えて、つなぎ合わせる取組みにより資産化することができた。

・飯田市有形文化財に3件(溝口の塚古墳出土品・宮垣外遺跡土坑64出土品、座光寺の石川除)を指定するとともに、県史跡指定1件(南本城城跡)、国登録有形文化財登録1件(旧飯田測候所)が実現し、法制度に基づく文化財に位置づけて、資産価値を更に高めることができた。

<地域資産の情報発信>

・美術博物館、歴史研究所においては、専用ホームページや機関紙、年報・紀要等を通じて情報発信を行った。

・生涯学習・スポーツ課では、美術博物館等の既設ホームページとも連携させる形で、文化財保護情報サイト「文化財保護いいだ」のホームページを24年4月から新たに立ち上げるとともに、毎月の「広報いいだ」に文化財の紹介コーナーを設け、地域資産に係る情報発信機能を充実させた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・恒川遺跡群については、第1次候補区域の国史跡指定に係る意見具申を行うとともに、指定後の保存管理計画の素案の策定、遺構確認のための現地調査、出土遺物の市有形文化財指定を進め、地域資産としての位置づけを明確にし、その重要な価値を顕在化させる。

・美術博物館、歴史研究所では、調査研究成果に基づいた地域資源の資産化を更に進める。

・ホームページの充実を図るとともに、多様な情報媒体を効果的に活用して、地域資産の情報発信を積極的に行う。

・美術博物館、歴史研究所の蔵書についても、中央図書館で運用管理している蔵書検索システムでの検索が可能となるよう情報提供機能を充実させる。

・平成25年度内に飯田市教育委員会としての「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針を策定予定であるが、リニア時代の到来を見据えて社会教育機関が統合力を発揮し、かつ多様な主体と連携して、地域の個性と魅力の源となる地域資源の発見と、資産化の取組みを更に進める。